

高校生の研究 紹介

昨年、大阪府内で開かれた「第12回 高校化学グランドコンテスト」を振り返る「高校生・化学宣言PART 9」（遊タイム出版）＝写真＝が出版された。口頭発表した上位10チームや、ポスター展示で入賞した5チームの研究成果などを紹介している。



最優秀賞の文部科学大臣賞に輝いた新居浜工業高専（愛媛県）は、次世代エネルギーとして注目される水素に着目。半導体産業で大量に廃棄されるシリコンに水酸化ナトリウム水溶液を加え、自作の装置で効率良く水素を発生させる

研究に挑んだ様子を報告した。

大阪市長賞・パナソニック賞の市川学園市川高（千葉県）は、二酸化炭素の削減を目指し、光触媒を応用した人工光合成で水から水素や酸素を生成する実験に取り組んだ過程を説明。大阪府立大学長賞の鹿児島県立錦江湾高は、大気汚染の原因となる二酸化窒素の濃度を、安価で正確に測る機器を開発。工夫や苦労したエピソードを披露している。同コンテストは大阪市立大、大阪府立大、読売新聞大阪本社の主催。本は中沢浩・大阪市立大教授と松坂裕之・大阪府立大教授が監修した。税抜き1500円。